

## 2025サービスラーニングII(B)

## 防災子ども食堂



## メンバー

教育学部：5251017兼重駿矢・5251032隅涼夏・5251052中本海音・5251056野原芽依・  
5251058萩原こころ・5251062廣瀬瑠愛・5251068松倉衣吹・5251075山本和佳  
経営学部：6243166渕上叶太・6253214村上累  
心理学部：6231105中村碧帆・6241119松本のか

担当教員：岩本裕子（教育学部）

## 目的

地域の繋がりの希薄化や子どもの貧困・孤立、災害時の弱者支援を背景に、どのような状況にある子ども達であっても皆がより安心・安全に暮らしていけるよう、楽しく防災を学びつつ居場所や地域でつながることのできる場として、「防災子ども食堂」を学生自ら企画・実施し、地域に貢献する。この活動をとおして、地域の安心・安全について考えう。

## 事前学習

## 1. 文献による学習

## 子ども食堂について

- ・貧困や孤食、つながりの希薄化により、子どもが安心できる居場所が不足している。
- ・子ども食堂は、食事と交流を通して心と生活を支える場となっている。

## 防災子ども食堂について

- ・地域のつながりが弱まり、災害時に助け合いが難しくなっている。
- ・防災子ども食堂は、人が集い、防災意識と支え合いの関係を育む場となる。子どもの孤立と地域の防災力低下を同時に解決する取り組みである。

## 2. ゲスト講師による学習

尼崎市社協より、尼崎市こども食堂ネットワーク担当の方にお越しいただき、

- ・こども食堂について

・尼崎市内の子どもの課題と子ども食堂の状況についてなどを、グループワークを交えてお話を伺った。

- ・大学の近隣には子ども食堂はなく、自分の活動が意義深いことに気づいた。
- ・市内には、地域の子どもたちのために活動している多くの子ども食堂があることは分かった。
- ・子ども食堂はそれぞれ創意工夫をして、その地域の状況に応じた方法で取り組んでいた。



## 3. 地域の子ども食堂での活動体験

- ・防災こども食堂の開催にあたって、各自が地域のこども食堂で活動を行った。
- ・地域の食堂での活動を通して、食堂を訪れた子どもたちとのコミュニケーションの取り方やルールの決め方など、食堂を気軽に訪れる方法を学んだ。

**【広報】**  
・チラシ、ポスターを作成し、  
・広報先をリストアップし、  
・手分けして、直接参加郵送で周知



## 活動内容

開催日：8月21日、22日、9月13日

10月11日の4日間

時間：11時～14時

参加費：無料、事前申し込みなし

参加者：148人

## 【1日目】 参加者27名

メニュー：カレーライス（α化米、アイラップご飯・備蓄用レトルトカレー）

楽しく学ぶ：防災○×ゲーム、

アイラップご飯の説明

食事：アイラップご飯&アルファ化米でカレーライス実食

自由時間：食事終了後は自由時間

「やりたくないことはやらなくていい、

やりたいことをしよう！」

宿題のサポートや、おもちゃ等での遊びをサポート



## 【2日目】 参加者42名

メニュー：五目御飯（α化米）とみそ汁（フィリーズドライ）、アイラップご飯

楽しく学ぶ：お絵描きbingo（野菜・果物、動物）

アイラップご飯の説明

食事：レク終了後アルファ化米（五目ごはん）とみそ汁、

アイラップご飯（一口おにぎり）を実食

自由時間：食事終了後は自由

時間宿題のサポートや、おもちゃ等での遊びをサポート



## 【3日目】 参加者32名

メニュー：カレーライス（α化米、アイラップご飯・備蓄用レトルトカレー）

楽しく学ぶ：関西国際大学周辺の地震・津波の防災マップの作成＆掲示と説明

防災bingo（災害・避難時に必要なものの名前）

アイラップご飯の説明

食事：レク終了後アイラップご飯とアルファ化米でカレーライス実食

自由時間：食事終了後は自由時間



## 【4日目】 参加者47名

メニュー：カレーライス

楽しく学ぶ①：アイラップご飯の説明

食事：アイラップご飯&アルファ化米でカレーライス実食

楽しく学ぶ②：牛乳パックとペットボトルキャップでホイッスル作り

防災○×クイズ（豆知識も加えた）

自由時間：※食事時間と楽しく学ぶ時間の順番を入れ替え、より参加しやすく工夫。

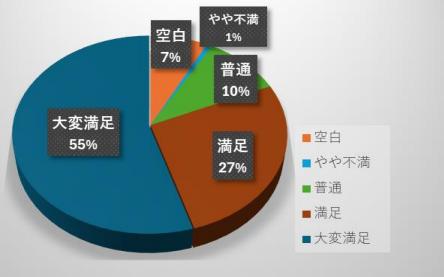




## アンケートのその結果

大変満足55%と満足27%を併せると、82%が満足している

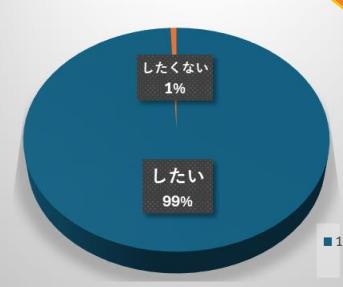
### 防災子ども食堂への満足度



小学校への配布が効果的



### α化米を常備したいと思ったか



α化米を常備したいと思った人は99%  
(同時に、アイラップご飯も好評だった)

## 自由記述から（一部抜粋）

### ○ α化米やアイラップご飯について

- ・ α化米が思ったよりおいしかった。いい機会でした。
- 子供と一緒に参加し、アルファ化米を食べれることを知り、常備したいと思いました。
- ・ アイラップ気になっていたけど使ったことがなかったので、子どもとやってみようと思うきっかけになった。
- ・ アイラップ米の方が美味しかったです。楽しかったです。
- ・ アイラップご飯大変感銘を受けました。勉強になりました！子どもたちや地域の方もおいしく楽しそうに食事されていてとてもいいイベントをされていると思いました。

### ○ 防災について学べた

- ・ 子どもにも分かりやすく用語を説明して下さってました。ありがとうございました。
- ・ 防災について勉強でき参考になった。ありがとうございました。
- ・ 防災の豆知識が得られてよかったです。

### ○ アイラップご飯やマップの作成などを参考にさせていただきます。

- ・ 子どもたちと防災について考えるきっかけとなりありがたかったです
- ・ 家族みんなで楽しめています。いつもありがとうございます。
- ・ 保存食を食べる機会が少なかったので味見ができるよかったです。子どもが嫌がらず食べる事が分かったのでよかったです。

### ○ その他

- ・ 分からない勉強があったからちょっとだけ教えてわかるようになったことがよかったです。



・ 計4回の防災子ども食堂を経て、人に自分の知識を教えたり、伝えたりすることの難しさと楽しさを学ぶことができた。子供たちに「防災」について知つてもらうためにレクリエーションを通して理解を深めてもらい、災害に備えて何を準備しておくべきか、どこに避難をしたら良いのか、防災食はどうやって作るのかなどを自分事として考えてもらうことができ嬉しかった。また、自分の身を守るために地域の人との関わりが大切になってくることもあるので、人との関わりを大事にして生活することの大切さも伝えることができ有意義な時間を共に過ごせた。

・ この活動は普通の子ども食堂ではなく、「防災」子ども食堂というのがテーマだったので、ただ楽しいを共有するだけではなく、その難しさや、大変さを身をもって体験することができ、自分自身成長する機会となった。

・ 事後アンケートでは、「防災についてまた学びたい」「ご飯が美味しかった」「一緒に遊びたい」などの意見が多くなり、4回とも来てくれた人もいたりして、本当に満足してもらえたと実感できた。

この活動を機に自分たちももっと防災について学ぶ必要があるとわかったので、今後に活かしていくたい。

## 成果（地域への貢献）

### 子どもたちが防災に興味を持ってくれた

- ・ 実際にアルファ化米を作る体験がきっかけになった

- ・ たのしかった、またやりたいという声があった
- ・ 子供たちの防災への関心が高まった
- ・ 子供たちに楽しく学んでもらえた

### 地域の人や子供たちとつながることができた

- ・ 活動を通して感謝の言葉をもらえた
- ・ 地域の防災意識を高めるきっかけを作れた

### 参加者の満足度が高く、参加者の防災意識が高まった

- ・ 子どもたちの笑顔や感想から手ごたえを感じた
- ・ 家でも防災について話してみたいという声があつた

### 家庭や学校でも防災について話すきっかけができた

## 自分たちの学び

### 防災の知識と意識が高まった

- ・ アルファ化米の炊き方など、新しい知識が増えた
- ・ 防災意識が高まり、自分たちも学びなおすききっかけになった
- ・ 実際に食べて体験できたことで理解が深まった

### 地域子どもや支援活動について学ぶことができた

- ・ 事前学習を通じて、子どもの置かれている状況やそれを支援する人々や活動について学ぶことができた
- ・ 普段の地域のつながりが大切だということを学んだ

### チームワークの大切さを学んだ

- ・ 役割分担の大切さを理解した
- ・ 自分だけではなく、周囲と協力する必要性を感じた
- ・ 一人ではできないことも、助け合い協力することで円滑に進められた。

- ・ 声を掛け合って助け合う大切さを実感した

- ・ 自分の仕事に責任を持つ意識が高まった。

- ・ 主体的に、考えて行動する力がついた

### 準備・スケジュール管理の大切さを学んだ

- ・ 限られた時間の中で効率よく進める工夫が必要だった。
- ・ 事前準備が当日のスムーズな進行につながった。

### 子どもたちとのかかわり方を学んだ

- ・ 年齢に合わせた言葉遣いの工夫が必要だった。

- ・ 子ども目線で伝えることの難しさと楽しさを感じた。

### 伝える力を意識するようになった

- ・ 説明の仕方や声のトーンで反応が変わることに気づいた。

- ・ どうしたら興味を持ってもらえるか考へるようになった

## 今後に向けて

- ・ 準備段階での連携をもっと早く始めた
- ・ 当日の説明や進行をさらにわかりやすく工夫したい
- ・ 子供たちに感謝されたことでやりがいを感じた。

- ・ 活動を通して地域とつながり信頼関係を築くことができた

- ・ 今後の活動にも協力を得やすくなつた



## 協力のお礼

本事業実施にあたり、尼崎市をはじめ、多くの方にご協力をいただきました。ありがとうございました。